

別証の I) について検討する。

証明したいことは  $n$  次元の  $r$  個のベクトルの  $r$ -ベクトルに対して、強い意味で一次独立 ( $|a_1, \dots, a_r| \neq \mathbf{0}$ ) のとき、その一部を  $i$  個除いたものの  $(r-i)$ -ベクトルも強い意味で独立である ( $(r-1)$ -ベクトルも  $\mathbf{0}$  でない) こと。(例えば、 $|a_1, \dots, a_{r-1}| \neq \mathbf{0}$ )

まず、上記のベクトル  $a_1, \dots, a_r$  を並べた  $(n, r)$  行列を以下のように置く。

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \dots & a_{1r} \\ a_{21} & a_{22} & \dots & a_{2r} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{i1} & a_{i2} & \dots & a_{ir} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{n1} & a_{n2} & \dots & a_{nr} \end{pmatrix} \quad (1)$$

仮定より、 $r$ -ベクトルは  $\mathbf{0}$  でないから、ある組み合わせ、 $\nu = (\alpha_1^{(\nu)}, \alpha_2^{(\nu)}, \dots, \alpha_r^{(\nu)})$  に関して、

$$\begin{vmatrix} a_{\alpha_1^{(\nu)}1} & a_{\alpha_1^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_1^{(\nu)}r} \\ a_{\alpha_2^{(\nu)}1} & a_{\alpha_2^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_2^{(\nu)}r} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_r^{(\nu)}1} & a_{\alpha_r^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_r^{(\nu)}r} \end{vmatrix} \neq 0 \quad (2)$$

この左辺は II の定理 5 の展開定理より、例えば最後の列 ( $a_r$  の要素) に関して、展開でき、

$$|A^{(\nu)}| = \begin{vmatrix} a_{\alpha_1^{(\nu)}1} & a_{\alpha_1^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_1^{(\nu)}r} \\ a_{\alpha_2^{(\nu)}1} & a_{\alpha_2^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_2^{(\nu)}r} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_r^{(\nu)}1} & a_{\alpha_r^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_r^{(\nu)}r} \end{vmatrix} = a_{\alpha_1^{(\nu)}r} \Delta_{\alpha_1^{(\nu)}r} + a_{\alpha_2^{(\nu)}r} \Delta_{\alpha_2^{(\nu)}r} + \dots + a_{\alpha_r^{(\nu)}r} \Delta_{\alpha_r^{(\nu)}r} \neq 0 \quad (3)$$

ここで、

$$\Delta_{\alpha_i^{(\nu)}r} = \begin{vmatrix} a_{\alpha_1^{(\nu)}1} & a_{\alpha_1^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_1^{(\nu)}(r-1)} \\ a_{\alpha_2^{(\nu)}1} & a_{\alpha_2^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_2^{(\nu)}(r-1)} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_{i-1}^{(\nu)}1} & a_{\alpha_{i-1}^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_{i-1}^{(\nu)}(r-1)} \\ a_{\alpha_{i+1}^{(\nu)}1} & a_{\alpha_{i+1}^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_{i+1}^{(\nu)}(r-1)} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ a_{\alpha_r^{(\nu)}1} & a_{\alpha_r^{(\nu)}2} & \dots & a_{\alpha_r^{(\nu)}(r-1)} \end{vmatrix} \quad (4)$$

この  $\Delta_{\alpha_i^{(\nu)}r}$  を見てみると、 $a_1, \dots, a_{r-1}$  のある行の組み合わせ  $\nu' = (\alpha_1^{(\nu)}, \alpha_2^{(\nu)}, \dots, \alpha_{(i-1)}^{(\nu)}, \alpha_{(i+1)}^{(\nu)}, \dots, \alpha_r^{(\nu)})$  に対して、行列式をとっているので、 $\Delta_{\alpha_i^{(\nu)}r}$  は  $|a_1, \dots, a_{r-1}|$  の要素になっている。(3) を考えると、行列式が 0 にならない場合、ある  $1 \leq p \leq r$  があって、 $\Delta_{\alpha_p^{(\nu)}r} \neq 0$ 。(そうでないと、 $|A^{(\nu)}| = 0$  となってしまう。)

よって、 $|a_1, \dots, a_{r-1}|$  のある要素は  $\mathbf{0}$  でないので、 $|a_1, \dots, a_{r-1}| \neq \mathbf{0}$

以上により、 $a_1, \dots, a_{r-1}, a_r$  が強い意味で一次独立であれば、 $a_1, \dots, a_{r-1}$  も強い意味で独立であることが示された。ここで  $a_r$  を取り除いたが、 $a_1, \dots, a_{r-1}, a_r$  のうち任意の 1 個を除いても同じことが言える。また、これを繰り返し適用することのできるため、その一部のベクトルも強い意味で一次独立となる。